

# 農業



令和3年2月号  
会誌 No. 1674

## 目次

### 巻頭言

グッド・プラクティス……………小栗 邦夫 3

### 論壇

本格化する復興農学会……………生源寺真一 4

### 秋期中央農事講演会

これからの農村政策を考える……………小田切徳美 6

### 表彰農家訪問

養蚕，菌床シイタケ，そしてさらなる高収益化を目指した  
複合経営……………小巻 克巳 25  
—福島県二本松市に安齋孝行・とく子ご夫妻を訪ねて—

### 研究の最前線

関東南部におけるトウモロコシ二期作栽培体系の確立……………折原健太郎 33

### 農業・農村の現場から

真のブランドは，地方のプライドから生まれる……………寺本 英仁 41

## 世界の農業は今

ドイツにおける環境保全型農業と経営多角化……………市田 知子 48

## 私の経営と志

I ターンでカンキツ栽培……………齋藤 誠二 54  
—新たな農業経営スタイルを目指す—

## 統計情報

令和元年産 米生産費（組織法人経営）…………… 56

## 農政情報

大日本農会だより…………… 58

編集部から…………… 58

## ミニ情報

「令和2年度地産地消等優良活動表彰」の紹介…………… 24

「令和2年度 全国優良経営体表彰」の発表について…………… 47

### 表紙写真説明

### ハクサイ生産量日本一（茨城県結城郡八千代町）

茨城県の県西地区を中心に栽培されるハクサイ。茨城県はハクサイの生産量が全国第1位を誇る大産地で、その中でも八千代町は県内一のハクサイ産地です。大正期から栽培が試みられ、大消費地の東京にも近いことから生産が拡大し、2019年11月に開かれた宮中祭祀の大嘗祭には同町のハクサイが庭積にわづみの机代物つくえしろものとしても供納されました。

茨城県は冬場のハクサイの生産量が圧倒的に多く、11月から1月にかけての東京都中央卸売市場への出荷量のシェアは9割近くになります。ハクサイは球内が黄色の黄芯ハクサイが主流ですが、八千代町では一部の生産者で球内がオレンジ色のオレンジハクサイも栽培し有利販売に努めています。

出荷は10月上旬から始まり3月下旬まで続きますが、3月上旬からは春ハクサイの出荷も始まります。春ハクサイは八千代町が茨城県から青果物銘柄産地の指定を受けているハクサイで、秋冬ハクサイに比べ葉が柔らかく、みずみずしいという特徴から産地では鍋物や炒め物での使用に加え、サラダにも使えるハクサイとしてPRしながら需要の拡大を図っています。

（写真及び文：常総ひかり農業協同組合 企画総務部企画総務課 戸頃 泰秀）